



[doronko_inekari1 \(1\)](#)

[doronko_inekari1 \(1\)](#)

浜松市にある「市民農業の会」の小楠一代表(80歳)に聞いた。

農家の高齢化と後継者難のために、荒れ農地が増え、地域の特産品生産が減ってきている。耕作放棄地を活用して、農業をやってみたい人に土地を貸し、農業指導をするのが「市民農業の会」である。

行政・農協の大規模化・企業参入などでは手が届かない荒れ農地の利用にチャレンジし、農業を元気にする活動に取り組んでいる。

2003年に活動を開始し、2012年にNPO法人として活動を本格化させた。農業などやったことのない市民に農業への参入を呼びかけ、いろいろな形の農業ができるように支援している。

小楠代表の話を聞いていると、外国人の勢いを感じた。会員の半分は、なんと外国人になってきたという。国籍は、ブラジル、ペルー、フィリピンなど。

1年目には農業を教え、2年目は自分たちで土地を借りて進めていく。3年目になると、一家の主人の方は会社をやめて、農業に専念しだす。そして4年目になると、独立して農業でやっていける道がひらけていく、という。

外国人が農業を始めるという、きっかけはほとんどが口コミ。「教会」のネットワークが一つの情報源である。外国人のネットワークの拠点が教会、あるいはモスクでもある。

たとえば「カトリック浜松教会」などは、日曜礼拝に200人も集まる。そして、3分の2は外国人。毎週土曜日には、かれらはホームレスのため炊き出しにボランティアで参加し、子どもたちの学習支援を行っている。

また、天竜区のある森をクルマで走っていたら、突然、巨大なキリスト教会が現れた。古くなった会社の研修施設などを買って改修したようだ。300人くらいのブラジル人が集まっていた。

ともあれ、日本は外国人との共生社会に向かっているのは確かである。

〈問い合わせ先〉

静岡県浜松市南区堤町120

TEL.090-9179-8354 FAX.053-448-2332

E-Mail. h_ogusu@yahoo.co.jp

<http://siminnougyou.starfree.jp/index.html>

浜松北部生きがい特派員 池谷 啓